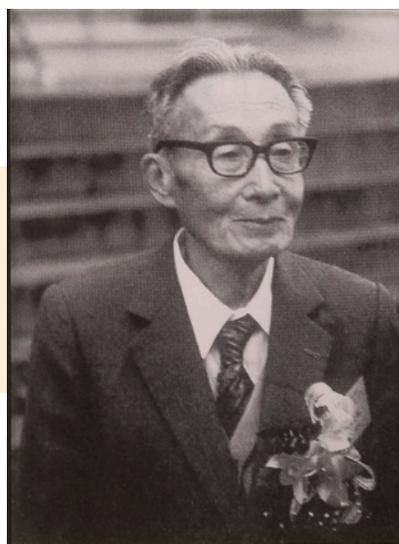


イネ遺伝育種研究の第一人者 岡彦一



岡彦一（1916-1996）はイネの遺伝育種学
研究の第一人者として国際的に知られていま
す。特に栽培稲近縁野生種の種間及び種内変
異、生殖隔離機構、自然選択の作用、環境適
応、繁殖様式と集団構造など、栽培稲の起源
に関して優れた業績をあげ、約160編の研究論文
を発表しました。また著書も多く、そのなかで
も、1988年に出版された「Origin of Cultiv
ated Rice」は、イネ進化遺伝学の優れたテキ
ストとして国際的に知られています。さらに得
意な中国語を駆使して、中国語で書かれた栽培
稲の起源と分化に関する研究論文を訳して「中
国古代遺跡が語る稲作の起源」（八坂書店、
1997年）を出版しました。これは中国の栽培
稲の起源と分化に関する研究を日本の研究者に
紹介する意味で大変重要な本です。研究の傍
ら、多数のイネ系統や野生種イネの採集を行
い、国立遺伝学研究所にあるイネコアコレク
ションの基礎を築きました。これらの優れた業
績により、1963年に日本農学賞、1996年に勲
三等瑞宝章を受章しました。

岡は1916年に和歌山市に生まれました。
1940年に北海道帝国大学農学部を卒業後、大
原農業研究所の助手となりました。研究所には
2年しか在籍しませんでした、研究者として

の第一歩を踏み出しました。2年間に近藤所長
との共著論文4篇、単著の論文5篇を発表しまし
た。特に、単著で発表した「紫外線による穀物
の蛍光の研究、第一報～第三報」は、その後の
研究人生を決定させた研究です。

その後、台北帝国大学、台中農林専門学校
（現在 台湾国立中興大学）の教授として戦
中・戦後を台湾で研究と教育に従事しました。
岡の中国語はその時に習得したと想像します。
1954年に静岡県三島市にある国立遺伝学研究
所に着任して、1980年の定年退職まで勤めまし
た。

岡は研究ひとすじで、寝ている時以外は研究
のことしか考えていませんでした。若手の育成
にも熱心で、若手の意見に耳を傾けたり、若手
が書いた論文を丁寧に直したりしました。また
性別、職業、地位、国籍に全く偏見を持たない
国際人でした。晩年は三島市の自然保護活動に
尽力しました。

（馬 建鋒 分館長編集）

岡彦一に関する詳細な記事は前川雅彦教授が執
筆した[http://www.rib.okayama-u.ac.jp/
profile/ijinden/oka.doc](http://www.rib.okayama-u.ac.jp/profile/ijinden/oka.doc)をご参照ください。